

まちづくり懇話会で寄せられた意見（要約）

南院内地区

	案 件	回	答
1	<p>中学生の短期留学を支援する事業はグローバル化の波に乗って素晴らしい取り組みだと思います。この補助事業をどのように有意義に発展させ成果をあげようとしているのか、市としての意見を聞かせていただきたいと思います。</p>		<p>中学生短期留学事業は今年で3年目を迎えました。この事業は次代を担う中学生を海外に派遣し、外国での生活体験を通して見聞を広め、豊かな国際感覚を身に付けた人材の育成を目的に実施しています。これまで参加した多くの中学生からは、「生活習慣の違いはもちろん、生き方や考え方の違いに驚き考えさせられた。」「英語は勉強というより、人がコミュニケーションするための手段であることがわかった。もっともっと意欲的に取り組みたい。」「外国の文化や生活の様子を肌で感じ理解できたが、改めて日本や日本人について考えることができた。」「両親や祖父母のありがたさを感じた。感謝したい。」など、生徒の心の変化が伺えたという意見もいただいています。</p> <p>帰国後の学校生活では、意欲的な学業への取り組み、生徒会の役員選挙に立候補し積極的に活動するなど、参加した子どもたちが変容したと保護者から感謝の声も多数寄せられています。今後は、事前研修や事後研修の内容をさらに充実できるよう努め、子どもたちの誇りと希望、そして夢を育成していく取り組みにしていきたいと考えています。</p>
2	<p>院内地域には長寿会や老人会が4つしかありません。地区の中心で活動しているのは60歳を過ぎた老人です。何とか各地区にそういった会を増やしていただいて、お互いに交流していったら良いのではないかと思います。</p> <p>また、会議などへの出席依頼は多いのに市からの補助金はわずかしかなかったりありません。このような現状も老人会などを維持していくことを難しくしているのではないかと感じています。</p>		<p>平成26年度に南院内であれば温見谷の長寿会。あと両川に2つ、院内に1つあるので4つの会が活動しています。直近ですと余の老人会が無くなりました。その時にお話をお聞きしましたが、お世話をする役員さんがいなくなり存続が難しいため会の活動をやめさせてもらいたいと申し出であったと記憶しています。役員の方々が高齢化してお世話ができなくなったという話もお聞きしています。今後、新たな会の設立をという希望があれば当然私達も協力していきたいと思います。窓口は介護保険課となりますが支所の市民サービス課の方へもお気軽に声をかけていただきたいと思います。</p> <p>補助金につきましては、確かにおっしゃられるように、活動するにはなかなか難しい額だとは思いますが、この件につきましても介護保険課にこういうご意見があったことを報告して協議していきたいと思っています。</p>

3	<p>医療施設や商店、学校などがなければまちの維持ができないのではないかと思います。このまま色々な計画を立てても人がいなくなれば南院内も無くなってしまいます。人口を増やすことはできないでしょうが、ゆるやかに減っていくような対策が必要だと思います。基幹となる林業や農業などの1次産業も、採算がとれないため衰退しています。会社関係もほとんどないので、雇用の場もありません。今後、このような過疎地をどうしていくのかご意見を聞かせてください。</p>	<p>院内の中心部は、まず支所があって小学校・中学校があって付近には医療機関や福祉機関、郵便局、商店街も若干あります。院内の人口はすでに4,000人くらいですが何とかそこで歯止めをかけたいと思っています。</p> <p>院内には3つの小学校がありますので、これはすべて残して行こうと考えています。今は、一つひとつの集落がどんどん高齢化してなかなか身動きがとれませんので、旧小学校区単位にまちづくり協議会を作って、会長さんを中心にしてそこに補助金を入れたりだとか、人の手当をしたりだとか、このひとまとまりで何とか地域の衰退を食い止めるための対応を行っています。</p> <p>また、UIJターンで、この付近の空き家物件も紹介して少しずつではありますが人が入って来ているという状況です。できれば、この地域に職場がないにしてもここに住めば職場まで通える環境をつくっていきたいと考えています。そういった対策を2重3重にいろいろ打っていかないと、なかなか今の状況に歯止めをかけるのは厳しいのではないかと思います。</p> <p>宇佐市の人口は今、5万8千人程いますが2060年くらいには3万3千人になると言われています。そこで現在、将来の人口ビジョンと総合戦略を作っています。総合戦略と併せまして、何とか人口が減らないように努力して参ります。</p>
4	<p>オオサンショウウオなど希少動物の生息地域保護保全活動とは具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか。井堰などの掃除に行きますと5匹も10匹もその中に出ています。そういう状況ですので、かなり川などが荒れているのではないかと思います。もう少し保全活動に力を入れてもらいたいと思います。</p>	<p>オオサンショウウオは、市内でも一定の地域でしか生息していません。数年前から国・県の補助をいただきながら、夜間を中心に詳細な分布調査を行っています。市では、新しい個体には首のところにチップを埋め込んで経年観察を行っています。たとえば、市役所周辺の上田あたりで発見された場合、チップが入っているのかどうか調べます。もし埋め込まれていれば、いつこの河川のどのあたりでチップを埋め込まれた個体だということが分かります。そうすると何年でどれくらい成長したのか詳細なことが分かります。そういった取り組みにより、オオサンショウウオを保護しています。</p> <p>もう一つは今年度、オオサンショウウオの保存管理計画書を作成する予定にしています。例えば河川を中心とした護岸工事だとか、様々なものがこれから計画されると思いますがそういった時に文化財、オオサンショウウオの保護と開発をスムーズに進めるために保存管理計画書というのを作るようにしています。調査結果も出ていますので、もし関心がありましたら教育委員会の方にお問い合わせいただければそういった報告書なども閲覧することができます。</p>

5	<p>プレミアム商品券についてですが、買うことができなかつたと非常に苦情が出ていると聞いています。宇佐市でも今年の夏などはすぐ売り切れてしまいました。国からもかなりの補助金が出ているのではないかと思います、そうであればもう少し自治会長などを通じて市民に少しでも行き渡るような取り組みができないものでしょうか。</p> <p>プレミアム商品券につきましては、国の生活支援型という経済対策により実施されています。当市ではプレミアム分を含めまして7億4千4百万円分の商品券が発行されています。この事業は国からもらった交付金、市と県の分を合わせて全額交付金を充てています。なお、両院商工会の分は9千6百万円で夏と冬2回に分けますので4千8百万円分を先般発行したところです。特に今回は20%のプレミアムを付けたため、購入者が殺到し新聞などで販売方法について問題があったという報道がありました。</p> <p>後半の分は11月初旬に販売する予定です。商工会議所や両院商工会につきましても様々な課題があることは認識していますので、後期分の販売方法について現在検討しているところです。</p>
---	--